

公益財団法人
日本中国国際教育交流協会

【2022年度の歩み 会報第29号】



2023年3月発行

目 次

■巻頭言 公益財団法人日本中国国際教育交流協会 代表理事 中村武志	2
■日中国交正常化50周年記念メッセージ	3
■教育交流事業	6
□教育交流・派遣事業	6
□教育交流・受入事業	6
□教育交流・支援事業	6
◇河北省保定市阜平県音楽教育支援 2022年度教育支援に関する協定書	
□教育交流・研究等助成事業	9
◇第5回日中教育交流シンポジウム	
◇第18回日本語作文コンクール 教育賞受賞作品 テーマ：日中両国民の親近感を高めるために私が出来ること 「一生かけてやりたいこと」 周美彤 広東理工学院	11
テーマ：コロナ禍で暮らす 共に闘う3年目の記録 「無力感との闘い、私の行動」 黎芷妍 復旦大学	12
■機関関係	14
(1) 2021（令和3）年度事業報告	14
(2) 2022（令和4）年度事業計画	15
(3) 2022（令和4）年度収支予算書	16
(4) 2022（令和4）年度役員・評議員・公益事業審査員名簿	18
■協会の歩み	19
■編集後記	表紙3

■表紙写真

第5回日中教育文化交流シンポジウム

巻頭言



公益財団法人日本中国国際教育交流協会

代表理事 中村 武志

公益財団法人日本中国国際教育交流協会に対しまして、日頃より多くの方々から励ましやご支援を賜っておりますこと心から御礼申し上げます。

さて、2022年度も新型コロナウイルスの影響から抜け出せず、教育視察団やホームステイなど計画していた事業のいくつかも未実施のまま終えようとしています。自らの力だけではいかんともしがたい状況に慥たる思いも抱いておりますが、ここにきていくつか明るい「兆し」も見え始めてきました。

その一つは、今年も宋慶齡基金会との協定に基づき保定市阜平県に「教育支援金」をお届けできたこと、そしてその際に基金会から「ぜひとも中国に、そして阜平県に来てください」とのメッセージをいただいたことです。クリアすべきいくつかの課題はありますが、「訪中団結成」も視野に入ってきたように思います。

二つ目は、3年ぶりに「日中教育文化交流シンポジウム」を開催できたことです。全国各地から約60人の参加を得たこのシンポジウムでは、互いに「集う喜び」を感じながら、これまでの日中の（教育文化）交流を振り返りつつ、現場レベルでの教育（実践）交流の大切さ、そして当協会の「出番と役割」を確認し合えたと思います。

一方、世界に目を転ずれば、ロシアのウクライナへの侵攻はやまず、他の地域でも緊張と対立がより増しています。これらの解決は、短期的には「政治の力」に頼らなければならないのですが、人々の平安と子どもたちの今と未来の笑顔のために、不信の芽を摘み取り信頼と協調の種をまく「普通の人々の交流」もまた求められているのではないでしょうか。当協会は小さな団体ですが、ちがいを認め合う「勇気と覚悟としなやかさ」を糧に、議論と学習を重ね、子どもを中心にした教育交流の具体化に努めていきたいと考えます。「兆し」をより確かなものとするためにも・・・。

最後になりましたが、今後とも、多くの都道府県の実務関係者の方々のご支援を賜りますことを深甚よりお願い申し上げます。

日中国交正常化50周年記念メッセージ

中国宋庆齡基金会

贺 信

日本中国国際教育交流協会：

今年是中国中日邦交正常化50周年。50年来，在两国政府和两国人民共同努力下，各领域交流合作不断深化，给两国和两国人民带来重要福祉，也促进了地区乃至世界和平与发展。以50周年为新起点，双方应进一步致力和平友好共处，深化各领域交流合作，推动中日关系持续健康稳定前行。

多年来，我会与贵会共同致力于两国教育领域交流合作，发挥各自优势，用音乐搭建中日友好桥梁，开展公益合作和文化教育交流，谱写了民间友好的感人诗篇。未来，我会愿继续与贵会携手，以中日邦交正常化50周年为契机，在文化、教育、青少年等领域进一步加强交流与合作，为促进中日两国人民世代友好，推进两国民心相通作出积极贡献。



2022年10月12日

賀 状

日本中国国際教育交流協会 拝啓

今年は中国と日本国交正常化 50 周年を迎えてきました。50 年間にわたる両国政府と両国人民の一致した努力の下、各分野における交流と協力を絶えず深化させ、両国および両国人民に大きな幸福をもたらし、地域ならびに世界の平和と発展をも促進してきました。国交正常化 50 周年を新たな起点として、中国と日本は共に平和・友好・共存に力を注ぎ、各分野における交流と協力を深化させ、中日関係が引き続き健全かつ安定的に前へと進むよう後押しします。

長年にわたって、わが中国宋慶齡基金会は貴会と一緒に、教育分野における中日交流と協力を力を入れて、自分の長手を発揮し、音楽で中日友好の橋を作り、チャリティー協力と文化教育交流活動を展開させ、民間友好の人間ドラマを描かれました。これからも続けて貴会とともに国交正常化 50 周年を契機とし、文化、教育、青少年などの分野での交流を深化させ、中日両国人民世々代々の友好を促進するため、両国民衆の心の繋がりをより強くなるため積極的に貢献するよう祈念します。

中国宋慶齡基金会

2022 年 10 月 12 日

祝辞

本年は、日中共同声明のもと、両国の国交が正常化してから 50 周年となる記念すべき年にあたります。あの日から今日まで、日中両国は「永遠の隣人」として、その関係を発展させてきました。お互いの立場を尊重し、経済・文化を中心とした交流を深めることにより、大きな成果を上げてきました。両国の友好関係は、両国国民の幸福をもたらすだけでなく、世界の平和をも推進してきました。日中国交正常化 50 周年の祝賀にあたり、過去の歴史とこれまでのあゆみを心に刻みつつ、平和の誓いを新たにするとともに、両国の未来が明るく希望に満ちたものとなるよう、心から祈念しています。

貴中国宋慶齡基金会に置かれましては、我が日本中国国際教育交流協会との共同プロジェクトの推進に、誠意あるご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。教育交流派遣・支援・受入事業の取り組みの中で、民間レベルの地についた教育交流を、より深くまた多様に発展させることができました。規模としては小さなものかも知れませんが、子ども・学校を中心にした意義ある実践交流を行っていることを確信しています。今後も、教育交流の目的を忘れることなく、互いに学び合い、子どもたちの未来につながる取り組みを進めて行きたいと考えています。また、教育交流を通す中で、より良い両国関係の明日を築くために、力を尽くして行きたいと思っています。貴中国宋慶齡基金会との共同プロジェクトを、さらに充実・発展させていきますよう祈念し、日中国交正常化 50 周年に当たり、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

2022 年 10 月 12 日

中国宋慶齡基金会 様

公益財団法人
日本中国国際教育交流協会



教育交流事業

中国宋慶齡基金会との「新たな教育交流プロジェクト」の推進確認のもとに、2021年度からの5か年計画として、河北省保定市阜平県における取り組みの推進を行いました。教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる草の根教育交流をより深く、多様に発展させることを目指して計画を進めました。2022年度には、「視察研修訪中団」の派遣、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れ準備と、「第5回音楽教育交流会」の実施等の取り組みを進める予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行拡大の中で、実際に中国を訪問することもできず、宋慶齡基金会とのリモートによる協議の中で、やっと教育交流支援事業だけを実施しました。また、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪をも広げてきた、「第8回教育交流ホームステイ」事業についても、実施を見送らざるを得ませんでした。さらに、今年度こそは実施したいと考えていた、「田中一郎記念奨学基金」による、主に東南アジアからの留学生を対象とした、「留学生による日本語作文コンクール」は、残念ながら実施までこぎつけられませんでした。しかしながら、「第5回教育交流シンポジウム」の開催については、「日中教育交流の意義について、協会の今までの取り組みの検証も踏まえて考えよう」というテーマで、教育関係者を対象に実施しました。「第18回日本語作文コンクール」については、例年通り後援という形で参加し、作品の審査と「教育賞」受賞者の選定を行いました。また、リモートによる「スピーチコンテスト」にも参加しました。

□教育交流・派遣事業

昨年度、中国宋慶齡基金会との協議の結果、「新たな教育交流プロジェクト」実施地に決定した河北省保定市阜平県で行う計画でした。しかし、残念ながら訪中することは現実的に無理な状況の中で、「事務局訪中」「視察研修訪中団」の実施ともできませんでした。次年度は、何とか派遣事業を実施したいと考えています。

□教育交流・受入事業

「新たな教育交流プロジェクト」の実施計画については考えていましたが、残念ながら交流の内容が具体化できませんでした。しかしながら、宋慶齡基金会を通しての阜平県との確認では、今まで易県や東平県で行い実績を上げてきた音楽教育を中心とする教育交流をする中で、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れについて検討していくことになりました。

□教育交流・支援事業

◇河北省保定市阜平県音楽教育支援

新たな「教育交流プロジェクト」の初年度として、河北省保定市阜平県への音楽教育支援を行いました。支援の規模としては、過去の取り組みと同じように、100万円/年で行っていくこととしました。

2022年度教育支援に関する協定書

LEGAL DOCUMENT

協定書

宋基金会法字(2022)/85号

甲方：公益財団法人日本中国国際教育交流協会

法定代表者：中村武志

連絡先：赤岡直人

電話番号：0081-55-269-6533

メールアドレス：info@ajciee.or.jp

住所：400-0031 日本国山梨県甲府市丸の内 2-32-16 甲府丸の内マンション 302

乙方：中国宋慶齡基金会

法定代表者：李安晋

連絡先：王璐璐

電話番号：0086-10-86601945

メールアドレス：wangll@sclf.org

住所：中華人民共和国北京市東城区東安門大街 82 号院

甲方公益財団法人日本中国国際教育交流協会と乙方中国宋慶齡基金会は、日中両国の友好のため、特に中国で経済発展途上地域の学校教育条件を改善し、またより多くの子どもに教育を受ける機会を提供するため、今後共同の活動領域において互いに協力していくことで合意した。こうした目的を達成するため、以下の協定を結ぶ。

宋慶齡基金会



LEGAL DOCUMENT

第5回教育文化交流シンポジウム（教育交流 研究等助成事業）

2018年度「第4回日中教育文化交流シンポジウム」という形で、日中の学生を中心とする教育文化交流を計画し実施しました。大きな成果を上げ、2019年度も「第5回日中教育文化交流シンポジウム」を計画していましたが、コロナ禍のために実施できませんでした。その後の、2020・2021年度も計画しましたが、やはり感染拡大の状況で実施できませんでした。そこで、今年度は今までの「日本語作文コンクール」とのコラボレーションという形をやめ、日中教育交流の歴史や現状とその意義、そして今後の展望や課題に焦点を当てて、研修会的な要素を入れながらのシンポジウムとして実施しました。



（1）第5回日中教育文化交流シンポジウム実施要項

- 1 実施目的 ○日本中国国際教育交流協会の活動をベースに、日中教育交流の意義についての理解を深め、今後の協会の在り方や取り組みについて考える機会とする。
- 2 実施日時 2023年2月18日（土）14：00～17：00
- 3 実施場所 日本教育会館9階第五会議室
- 4 参加者 ・協会顧問・理事・評議員・公益事業審査委員・会員・団体会員・参加希望者
- 5 コーディネーター・シンポジスト
・コーディネーター
中村武志（協会代表理事・前三重県教組執行委員長）
・シンポジスト
初岡昌一郎氏（協会公益事業審査委員・元姫路獨協大学名誉教授）
朱 天嬌氏（三菱商事RtMジャパン社員・上海外国語大学卒・東京大学教育学研究科修了・江蘇省出身）
黒田 文男氏（協会前代表理事・教育公務員弘済会前理事長・静岡県教組執行委員長）
- 6 日 程 シンポジウム
13：30 開場・受付
14：00 開会 司会 赤岡直人（協会業務執行理事）
代表理事挨拶 中村武志
14：10 ①交流シンポジウムの方向付け（中村コーディネーター）
②基調意見発表（初岡・朱・黒田シンポジスト）各自30分
③意見交換（参加者）
④総括（中村コーディネーター）
※途中休憩を取ります。
17：00 閉会
※閉会後に、参加者全員での懇親会を開催します。（教育会館内）
- 7 備 考 ・参加要請 協会顧問・理事・監事・評議員・公益事業審査委員・団体会員・参加希望者・事務局
（あらかじめ出欠の確認を行います。）
・旅 費 所属団体所在地（個人は現住所）からの交通費を支給します。
・懇親会費 協会で全額を負担します。

LEGAL DOCUMENT

第一条（目的及び用途）

甲方は、中国河北省保定市阜平県の学校に対する音楽教育支援を乙方を通して行う。これによって音楽教育環境を改善し、水準を向上させる。

第二条（送金及び報告）

1. 2022年、甲方は中国河北省保定市阜平県の職業技術教育にかかわる音楽教育条件・教育レベルを改善するために100万円を送金する。
2. 甲方は2022年11月30日前に100万日本円を乙方の指定口座に振り込む。乙方は振込を受け次第、100万日本円を河北省保定市阜平県教育体育局に送り、当地職業技術教育の振興に使う。
3. 乙方は2023年2月28日までに、実施報告（具体的プロジェクトの実施内容、決算を含む）を甲方に提出する。

双方は以上の協定に同意し、この協定を日本語と中国語共に各六部を作成し、双方の代表が署名捺印の上、それぞれ三部を保存するものとする。

甲方(捺印):

法定代表人或いは授權代理人

(サイン):

中村武志

2022年11月28日



乙方(捺印):

法定代表人或いは授權代理人

(サイン):

2022年11月15日



LEGAL DOCUMENT

・その他 コロナウイルス感染の状況によっては、中止等の事態も考えられます。開催の有無については、できるだけ速やかに判断し、連絡します。

(2) シンポジウム内容報告

今回は、学習会・研修会という意味合いが強かったので、シンポジストの3名の方々には、それぞれの立場から沢山の示唆をいただきました。

初岡昌一郎さんからは、中国の近現代史の解説を踏まえながら、そこに流れている日中の人的・政治的・文化的関わりや交流について、具体的なお話を伺いました。日中両国の関係は、まさに切っても切れない、深い結びつきがあることを、改めて学習することができました。また、宋慶齡基金会と当協会との関わりについての経過も教えていただきました。

朱天嬌さんからは、自身と日本との関わり、中国での日本語学習そして日本への留学・就職を通して感じたこと考えたこと等、まさに身を持っての日中教育文化交流について話していただきました。また、当協会の事業(受け入れ・シンポジウム)への参加経験を通しての感想や意見も伺いました。まさに、中国の若者の日本観や両国の関わりについての考えなどとても参考になる話をしていただきました。

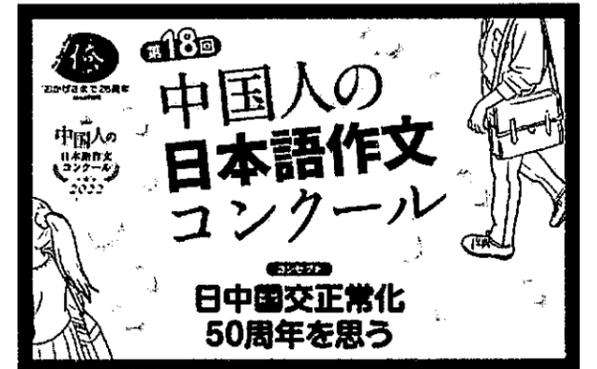
黒田文男さんには、当協会と宋慶齡基金会等との交流の経過について、自身の活動と感想について話していただきました。特に、基金会との初めての共同プロジェクトだった易県との音楽教育を通しての教育交流についてのお話を伺いました。そしてさらにその後の、東平県との交流も踏まえながら、日中教育交流のとらえ方、また当協会の今後の活動への課題についても提起していただきました。

シンポジストのお話の後、参加者からの質問・意見・感想を受け、大いにシンポジウムの中身を深めることができました。日中教育交流を民間レベルで続けることの意義が、そして当協会の活動の必要性が、全体を通して確認できました。



第18回日本語作文コンクール (教育交流 研究等助成事業)

2022年度第18回日本語作文コンクール(日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛)には、中国のほぼ全土にわたる28省市自治区の大学や大学院、専門学校、高校など205校から、延べ3362本もの多くの作品が寄せられ、昨年の3198本を上回る応募数となりました。特筆すべき点としては、今回、中学校、高校および専門学校の応募数が20校を超えたことで、これはコンクール史上初めてのことです。



第18回のテーマのコンセプトは「日中国交正常化50周年を思う」。これに沿ったテーマおよびテーマごとの応募数は、①日中両国民の親近感を高めるために私ができること(1456本)、②街中にあふれる誤訳を減らそう——私の解決策(285本)、③日本語を教えてくれた先生への「感謝状」(737本)、④コロナ禍で暮らす——共に闘う三年目の記録(884本)となりました。

詳しい集計結果を見ると、応募総数3362本のうち、男女別では女性が2654本、男性が708本。女性が男性の約4倍に上り、圧倒的に多かったです。地域(行政区)別では、青海省、チベット自治区を除く中国のほぼ全土にわたる28省市自治区から応募がありました。最多は遼寧省(513本)、次いで広東省(374本)、浙江省(367本)と、日本語学習者が多いとされる中国沿海部と東北部からの応募が上位を占めていました。

★教育賞・日中国際教育交流協会賞(5万円相当)

周美彤 広東理工学院
黎芷妍 復旦大学

(1) 教育賞受賞作品

テーマ：日中両国民の親近感を高めるために私ができること

「一生かけてやりたいこと」

周美彤 広東理工学院

「日本に行くなら、帰って来なくていいわよ」

三年前、日本に留学したい思いを母に伝えた私は、こう怒られてしまった。その時の私はただ黙って泣くことしかできなかった。感情に任せて言った言葉だとすぐにわかったけれど、日本に留学したいと言っただけでそんなに怒られるのかと驚いた。母の世代以上の中国人の間に、日本人に対する壁が未だに存在していることを深く感じた。

人々はいつもメディアに認識を左右される。しかしメディアの情報は一方的で、偏見が多いと私は思う。

「実際に日本人と接したことがなく、日本人の本当の考えをわかっているわけでもないのに、勝手にレッテルを貼るなんて嫌だ」

その時、一生をかけてやりたいことを見つけた。それは、日中の架け橋になることだ。

小さい頃からずっと日本の文化に触れ、日本のことが大好きだったから、日本人の方もきっと優しくしてくれると勝手に想像していた。このような気持ちを持って、私はインターネットで日本人の友達を作った。その中で一番仲が良いのは、日中オンライン交流イベントで知り合った人だった。毎日電話したり、メッセージを送ったりして、私たちの視野はインターネットを通じてどんどん広がっていった。

食事を始める前に母の手料理の写真を撮ると「またあの日本人に送るの」と時々聞かれた。「褒められたよ」



と伝えると、母も笑って喜んでくれた。このように、日本人の友達のことは私を通じて少しずつ母にも知ってもらった。友達の話は母との会話の中にも時々出てきた。母の日本人に対する親近感が少し増したかなと思うと思わずにやにやしてしまうほど嬉しくなった。

残念なことに、二〇一九年の末に、新型コロナウイルスが中国で発生した。日本に留学する長年の夢も叶わず、そのまま中国の大学に入るしかなかった。悔しくて、悲しくて、どんどん元気がなくなって、勉強する気もなくなった。そして、日本人の友達と連絡を取ることもなくなっていった。

ある日、母は珍しく、自分から日本人の友達のことを話した。

「あの日本人の友達、最近どう？全然話さないね」

「えっ、どうしたの」

「いや、日本でも最近コロナが出たそうだから」

母の心配そうな顔に少し驚かされた。母が友達のことを心配するなんて、全然考えた事もなかった。そして、母に言われたこともあり、チャットアプリを開いたら、このようなメッセージが届いていた。

「周さん、最近どう？メッセージが全然来なくて、ちょっと心配。コロナのせいで、日本に留学することができなくなっちゃったね。でも周さんなら絶対いつか日本に来られるって信じてるよ。僕たちが初めて知り合った時のこと、覚えてる？最初は日本人は嫌われてるかもって心配してたんだけど、君は『友達になりたい』って言ってくれたよね。本当に嬉しかったよ。誕生日の時、わざわざ歌を歌って、絵をかいてくれて、本当に感動した。その時すぐに家族に伝えたよ、『僕、中国人の友達から誕生日プレゼントをもらったよ』って…」

何十回もとど直した歌、インターネットで調べながら一生懸命書いた絵。当時の思いがよみがえって涙が落ちた。その時初めてわかった。純粋な気持ちを持ち、お互いの文化を尊重し、誠実に付き合えば、きっと真に相手を思いやる気持ちが生まれてくるのだと。

今年二〇二二年は日中国交正常化五十周年だ。私は日本語で中国について紹介する動画を作ったり、交流イベントで日本人と交流したりして、日中の架け橋になるために自分でできることに、より一層熱意を持って取り組んでいる。そのような活動を積み重ねて理解を深めていけたら、両国民の親近感はきっと徐々に高まっていくと信じている。私は今後も日中民間交流を活発にし、さらなる努力を厭わず日中の架け橋になるべく尽力していきたい。

(指導教師・寺岡達矢)

テーマ：コロナ禍で暮らす — 共に闘う3年目の記録

「無力感との闘い、私の行動」

黎芷妍 復旦大学

コロナ禍による完全ロックダウンを経験したのは、3年間で2回目だ。村上春樹の「象の消滅」ではないが、我々が「コロナの消滅」を迎えられる日が来るのだろうか。

多くの人が「早く『正常』な生活に戻りたい」と言う。しかし、「正常」とは何だろうか？たとえば、3年後、今の生活に慣れていけば、それを「正常」と呼ぶのではないだろうか。時間さえあれば、一度身に付いた人の習慣も変わってゆく。人々が恐れているのは、変化そのものではなく、慣れたものが変えられてしまう無力感や不確実感なのではないか。ウイルスの変異も含め、変化は相変わらず私たちのまわりに毎日現れている。

大学一年生の一学期頃は、PCR検査の結果を準備しなくても、友達と他の都市に旅行することができた。その時の写真を見ては当時を思い出し、少し落ち込んでしまうこともある。が、もう過去には戻れないのだ。このような非日常的な状況下において私たちは、文句ばかり言い、コロナ禍が終わる日を待っているだけでいいのだろうか。

この時期、様々な発想の転換の機会が、意外に多くあると思う。コロナがもたらす様々な変化の中で、無力感に対抗する力を与えてくれるものは何か。人それぞれ、自分の人生を支えていくものは何で、自分が好きなもの



は何か、どのような価値を持っているのか。もう一回考え直す、かけがえのない機会であると思う。コロナ禍のせいで出来なくなったことが、たくさんある。しかし、新しいことを始めることもできる。

2019年自宅で封鎖中、日々コロナを終息させようと努力している医療従事者の方々に関する報道を、よく見かけた。休む暇もなく、感染リスクに晒されながらもてきぱきと働く姿は、毎日家で何となく過ごす私とは対照的だった。自分も実際の行動で恩返ししたいと考えていたところ、大学でボランティア募集という運命的な情報に出会った。躊躇わず応募し、ボランティア活動に加わった。「大変だね」と見ているだけでなく、自分にできる最大限のことをしなければならなかった。

しかし、多くのオフラインのボランティア活動が中止となった。従来の対面での活動は難しくなったが、私たちは主体的にオンラインでボランティア活動を続けた。私は、子供の勉強のサポートに取り組んだ。一緒に宿題をしたり、オリジナルの絵本を作ったり、読み聞かせをしたりした。子供の両親は家に帰れない、最前線で闘う医療従事者だ。できることに限りがあるとしても、私は自分にできる方法で、彼らに困難と孤独を乗り越える勇気と力を与えたい。

現在、私の大学は封鎖中だ。私は、大学でもボランティアに加わった。学校内の配達員として、毎日クラスメートにお弁当やおやつ、自主検査キットを配っている。時には手袋をつけ、白い防護服に身を包み、PCR検査の手伝いや、防疫政策の連絡、個人データの読み込みといった仕事も受け持っている。それほど暑い日でなくても、フルセットの防護服を着たボランティア活動が終わるたびに、汗で服がびしょり濡れてしまう。医療従事者の方々の仕事が、想像していたよりずっと過酷だと初めてわかった。なにより、人助けをすることができ、みんなと安心して暮らせるようになって、自分も嬉しかった。

学生である私にできたことは、まだ本当に少ない。しかし、それらは、私が積極的にコロナウイルスや無力感、不確実感と闘ってきた証だ。受動的に変えられるより、これからも能動的に行動し、新しい日常を作っていきたい。

笑顔になる人が、世界中に少しずつでも増えてほしい。私に発することができる光は蛍火のようにか弱いですが、これからも行動を続け、人々に少しでも温かみと癒しを与えたい。大きな苦しみに直面している人に、未来は明るいと感じてもらいたい。そのために、私はできる限り、自分にも他者にも思いやりを持った人間になれるように闘い続ける。これからの新しい世界は明るいと感じて、前に進んでいく。

(指導教師・宮地里果)

機関関係

(1) 2021 (令和3) 年度事業報告

1. 教育交流・派遣事業

2021年度は、「新たな教育交流プロジェクト」実施地の決定を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齡基金会との協議の中で行い、河北省保定市阜平県を「新たな教育交流プロジェクト」実施地として決定し、新5か年計画をスタートさせました。実施地の決定について、今までは、中国宋慶齡基金会と連絡を取り合い、いくつかの候補地をあげてもらいながら検討を進め、年度初め早々に役員による事務局レベルの派遣を行い、新5か年計画の予備調査・事前協議を行っていました。また、その後に視察研修訪中団を候補地に派遣し、当財団と中国宋慶齡基金会そして現地の教育局との協議の中で、「新たな教育交流プロジェクト」としての派遣・受入・支援の内容について決定していました。しかしながら、「コロナ禍」の中で、そういった従来の方法はかまいませんでした。そこで、今回はリモートでの打ち合わせを重ねるとともに、基金会から送られてきた様々な資料を参考にしながら、協会としてもインターネット等で調べ、「新たな教育交流プロジェクト」実施地の決定を行わざるを得ませんでした。

2. 教育交流・受入事業

「新たな教育交流プロジェクト」の実施地が決定しましたが、交流の具体的な内容については、残念ながら協議できませんでした。「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」については、今までの教育交流受入事業の実績を踏まえ、より意味ある形で実施できるように検討していこうということになりました。中国においては、まだまだ地域格差の問題が教育にも大きく影響を及ぼしているようです。そうした中で、「日本に学びたい」という要望が非常に大きいと聞いています。民間教育交流の原点を踏まえて、河北省保定市阜平県における、「新たな教育交流プロジェクト」の5か年計画においても、教育交流団の受け入れについて計画していきたいと考えています。

3. 教育交流・支援事業

今後の取り組みの中で、「新たな教育交流プロジェクト」の実施地が決定し、交流の内容が具体化する中で、現地の教育局・学校側との話し合いを通じて、意味ある教育交流支援を行っていこうと考えて取り組みました。音楽教育実践への支援ということで、具体的な要望を踏まえて行いました。支援の規模としては、河北省保定市阜平県における、「新たな教育交流プロジェクト」においても、前回の5か年計画と同じように、宋慶齡基金会と協定書を結び、主に楽器の購入にあてるために100万円の支援を行いました。

4. 教育交流・研究等助成事業

- ① 「第9回教育交流ホームステイ」については、この間積極的に協力いただいているフジ国際語学院等とも協議を重ねましたが、新型コロナウイルス感染拡大にかかわる様々な影響（留学生が日本に来られない）で、「今年度も実施困難」という結論になりました。草の根教育交流として大きな意味を持っている取り組みなので、中止は非常に残念でしたが、しかたがありませんでした。
- ② 新たな事業として計画しましたが昨年度は実施できなかった、「田中一郎記念奨学基金」を利用した「留学生による日本語作文コンクール（仮称）」については、残念ながらこれも「コロナ禍」で進みませんでした。今年度も、ベトナム大使館へコンタクトを取る段階まで話が進んだのですが、それ以上具体化できませんでした。
- ③ 「第5回日中教育文化交流シンポジウム」については、「日本語作文コンクール」ともうまく関わりを持たせながら開催してきましたが、昨年度と同様に、作文コンクールの最優秀賞者が中国から来日できないなど、留学生も参加しての学習会が今まで通りに開催できるよう条件が整わずに中止することとなりました。「大変意味のあるシンポジウムで今後の取り組みに大いに期待する」というようなご意見ご感想を多数いただいておりますし、今後は中国大使館からも参加していただこうと考えていた矢先だったので、大変残念でしたが、来年度こそは開催をと考えています。
- ④ 「第17回日本語作文コンクール」については、今年度も協会は積極的にこの事業を後援し、審査に加わり、日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）2編を選出しています。今回の作文のテーマは、(1) 私はこう考える！ポストコロナの日中交流、(2) 伝えたい！「新しい交流様式」実践レポート、(3) アイデア光る！私の

先生の教え方、でした。テーマ別の応募本数は、(1) 1911本、(2) 676本、(3) 611本と、(1) が圧倒的に多くなりました。やはり日本語を勉強している中国人は、日中交流に高い関心があるようです。教育賞・日中国際教育交流協会賞（5万円相当）は、黄舒晨（浙江外国語学院）「私はこう考える！ポストコロナの日中交流」・朱雅蘭（上海大学）「桜便り」でした。

5. その他の活動

- ① 今年度は通常の理事会を4回、評議員会を2回、監査を1回開催しました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染予防措置として、すべて書面議決となりました。そこで、理事会・評議員会合同という形でしたが、新型コロナウイルスの感染が比較的落ち着いていた時期に実施し、協会の活動について現状報告・意見交換を行い意思疎通を図りました。
- ② 広報関係では、2022年3月に『会報28号』を発行しました。「共生力」は、コロナ禍で具体的な取り組みができなかったため発行しませんでした。
- ③ 財政確立に向けての賛助会員の取り組みは引き続き行い多くの協力を得ました。

(2) 2022 (令和4) 年度事業計画

新型コロナウイルス感染拡大の中で、今年度も昨年度と同様に、教育交流派遣事業・支援事業・受入事業・研究等助成事業について、当初計画したことがほとんど実行できませんでした。しかしながら、困難な状況下にあっても、中国宋慶齡基金会との「教育交流プロジェクト」の推進を中心に、派遣・受入れ・支援の「草の根教育交流」をより深く多様に発展させることを目指して、来年度も取り組みを進めて参りたいと考えています。また、過去8回にわたって積み上げてきた中国人留学生と日本の教職員家庭との友好を深める「教育交流ホームステイ」事業や、日中の青年たちの交流を通しての友好・相互理解の輪をも広げて5年目を積み上げてきた「教育交流シンポジウム」等、その大きな成果や意義を踏まえると、これらの取り組みを途絶えさせてしまうわけにはいかないと考えています。

協会の持続可能な活動を発展させるため、2022 (令和4) 年度は下記の教育交流事業を推進します。

1. 教育交流・派遣事業

- ① 「新たな教育交流プロジェクト（河北省保定市阜平県との教育交流）」の実施内容を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齡基金会との協議の中で行います。
- ② 「新たな教育交流プロジェクト（河北省保定市阜平県との教育交流）」の実施内容を決定し速やかな実施を図るために、「財団事務局」「視察研修訪中団」の派遣を行います。

2. 教育交流・受入事業

- ① 第6次宋慶齡基金会教育交流代表団の受け入れについて検討していきます。
- ② 中国教育国際交流協会、中国宋慶齡基金会、教育工会及びその他の教育諸団体が派遣する団体との教育交流、及び学校参観などの受入れ手配等を行います。

3. 教育交流・支援事業

- ① 2年次となる教育交流支援を、「新たな教育交流プロジェクト（河北省保定市阜平県との教育交流）」のもとに行います。

4. 教育交流・研究等助成事業

- ① 第9回教育交流ホームステイを実施します。
- ② 「留学生による日本語作文コンクール（仮称）」を実施します。
- ③ 教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させるため、第5回日中教育文化交流シンポジウムを開催します。
- ④ 第18回日本語作文コンクール（日本僑報社・日中交流研究所主催）の後援を継続します。

5. 機関運営などに関して

- ① 理事会、評議員会を年2回、監査委員会を年1回、各委員会、事務局会を随時行います。
- ② 年会報29号を発行します。また、『共生力』を随時発行します。ホームページの充実を図ります。
- ③ 事業推進に関する理解を図りながら会員を拡大し、よって財政基盤の確立を図るために、引き続き組織的な取り組みを進めます。
- ④ 財団の将来へ向けての在り方を検討するために、専門委員会を設置します。

2022（令和4）年度事業・会議報告（2022年4月1日～2023年3月31日）

2022（令和4）年

- 4月12日（火） 事務局打ち合わせ（監査について）
15日（金） 事務局打ち合わせ（会報28号配布について）
18日（月） 事務局打ち合わせ（監査・専門委員会設置準備会の通知について）
22日（金） 事務局打ち合わせ（決算について）、会計事務所と打ち合わせ
27日（水） 事務局打ち合わせ（監査準備、理事会通知について）
5月6日（金） 事務局打ち合わせ（監査について）
12日（木） 2021（令和3）年度 監査
専門委員会設置についての準備会
18日（水） 事務局打ち合わせ（第47回理事会準備について）
20日（金） 第47回理事会
6月3日（金） 第26回評議員会
20日（月） 第48回理事会（書面議決日）
24日（金） 内閣府提出書類について会計事務所と打ち合わせ
内閣府へ書類提出
7月20日（水） 事務局打ち合わせ
8月4日（木） 事務局打ち合わせ
24日（水） 第18回日本語作文コンクール審査結果の提出
9月12日（月） 事務局打ち合わせ
14日（水） 事務局打ち合わせ
10月12日（水） 日中共同宣言50周年記念祝辞の交換
17日（月） 事務局打ち合わせ
26日（水） 執行役員打ち合わせ
11月28日（月） 宋慶齡基金会との教育支援協定書の締結、支援費用100万円送金
12月12日（月） 第18回日本語作文コンクール受賞者による日本語スピーチコンテストへ後援団体として参加

2023（令和5）年

- 1月23日（月） 事務局打ち合わせ
2月13日（月） 事務局打ち合わせ
18日（土） 第5回日中教育文化交流シンポジウム
21日（火） 第49回理事会（書面議決日）
24日（金） 2023年度予算案会計事務所と打ち合わせ
3月17日（金） 第50回理事会（書面議決日）
第27回評議員会（書面議決日）
24日（金） 内閣府へ事業計画書等の提出
27日（月） 会報第29号発刊

(3) 2022 (令和4) 年度収支予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科目	4年度予算案額	3年度予算案額	3年実績見込み	増減 A-B	備考
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
① 基本財産運用収入	600	3,000	600	△ 2,400	
基本財産運用収入	600	3,000	600	△ 2,400	
② 特定資産運用収入	1,292	1,302	1,292	△ 10	
(公1)訪中派遣費用準備資金	193	230	193	△ 37	
(公2)訪日受入事業準備資金	110	128	110	△ 18	
(公3)教育交流支援費用準備資金	85	100	85	△ 15	
(公4)田中一郎記念奨学基金	904	844	904	60	
(共通)教育交流積立金	0	0	0	0	
③ 会費収入	7,141,000	7,279,000	7,141,000	△ 138,000	
1. 団体会費収入	6,940,000	7,140,000	6,940,000	△ 200,000	
2. 個人会費収入	95,000	90,000	95,000	5,000	
3. 賛助会費収入	106,000	49,000	106,000	57,000	
④ 寄付金収入	0	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	0	
特別寄付金収入	0	0	0	0	
⑤ 事業収入	140,000	640,000	0	△ 500,000	
1. 教育交流・派遣事業	0	500,000	0	△ 500,000	今回は参加費徴収なし
2. 教育交流・受入事業	0	0	0	0	
3. 教育交流・支援事業	0	0	0	0	
4. 教育交流・研究助成事業	140,000	140,000	0	0	20,000×7(ホームステイ)
⑥ 雑収入	73	0	73	73	
雑収入	0	0	0	0	
受取利息	73	0	73	73	
事業活動収入合計	7,282,965	7,923,302	7,142,965	△ 640,337	
2. 事業活動支出					
① 事業費支出	8,216,500	8,305,500	3,659,146	△ 89,000	
(1) 教育交流・派遣事業	4,347,000	4,347,000	724,101	0	
1. 役員報酬	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の3
2. 給料手当	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の3
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	会議会場費 飲物代など
4. 交際費	30,000	30,000	0	0	事務所来客用お茶等、土産代
5. 旅費交通費	3,500,000	3,500,000	10,500	0	訪中(打合せ4名・視察10名) 職員交通費(3か月)
6. 通信運搬費	45,000	45,000	36,981	0	保守料金・電話料金(3か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	25,000	25,000	3,630	0	ゼロックスアカウント料(3か月)
9. 賃借料	135,000	135,000	132,990	0	総額の約12分の3
10. 委託費	0	0	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研究助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	50,000	50,000	0	0	
14. 雑費	20,000	20,000	0	0	
(2) 教育交流・受入事業	517,000	517,000	484,660	0	
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の2
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	交流会議 打合せ 会場費など
4. 交際費	1,000	1,000	0	0	
5. 旅費交通費	7,000	7,000	7,000	0	職員交通費(2か月)
6. 通信運搬費	30,000	30,000	24,617	0	保守料金・電話料金(2か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	25,000	25,000	4,383	0	ゼロックスアカウント料(3か月)
9. 賃借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の2
10. 委託費	1,000	1,000	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	交流会議 打合せ 会場費など
12. 研究助成費	0	0	0	0	訪日に関わる諸費用等
13. 謝金	0	0	0	0	
14. 雑費	1,000	1,000	0	0	
(3) 教育交流・支援事業	1,529,500	1,529,500	1,497,869	0	
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の2
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	打合せ 委員会 参加者会議 会場費など
4. 交際費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等
5. 旅費交通費	10,500	10,500	10,500	0	職員交通費(3か月)
6. 通信運搬費	45,000	45,000	25,079	0	保守料金・電話料金(3か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	10,000	10,000	3,630	0	ゼロックスアカウント料(3か月)
9. 賃借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の2
10. 委託費	1,000	1,000	0	0	
11. 教育支援費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	宋慶齡基金会との共同プロジェクト
12. 研究助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	0	0	0	0	
14. 雑費	10,000	10,000	10,000	0	送金手数料など
(4) 教育交流・研究助成事業	1,312,000	1,312,000	595,749	0	
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の2
3. 会議費	100,000	100,000	0	0	研究会 打合せ 会場費など
4. 交際費	5,000	5,000	0	0	事務所来客用お茶、土産等
5. 旅費交通費	95,000	95,000	7,000	0	職員交通費(2か月) ホームステイ、シンポジウム旅費等
6. 通信運搬費	30,000	30,000	30,000	0	保守料金・電話料金(2か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	

科目	4年度予算案額	3年度予算案額	3年実績見込み	増減 A-B	備考
8. 印刷製本費	10,000	10,000	10,089	0	ゼロックスアカウント料(3か月)
9. 賃借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の2
10. 委託費	0	0	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研究助成費	550,000	550,000	100,000	0	作文コンクール・ホームステイ・シンポジウム(懇親会含む)など
13. 謝金	70,000	70,000	0	0	シンポジウムパネラー、講師謝金
14. 雑費	1,000	1,000	0	0	
共通	511,000	600,000	356,767	△ 89,000	
1. 役員報酬	0	0	0	0	
2. 給料手当	0	0	0	0	
3. 会議費	10,000	10,000	0	0	研究会 打合せ 会場費など
4. 交際費	1,000	1,000	0	△ 9,000	事務所来客用お茶等
5. 旅費交通費	100,000	100,000	0	0	役員国内交通費 委託先訪問時ほか
6. 通信運搬費	100,000	180,000	80,000	△ 80,000	切手代 賛助会費発送代 封筒代 資料送付等
7. 消耗品費	20,000	20,000	0	0	
8. 印刷製本費	250,000	250,000	250,000	0	年会報印刷代
9. 賃借料	0	0	0	0	
10. 委託費	30,000	30,000	26,767	0	HP使用料ドメイン使用料
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研究助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	0	0	0	0	
14. 雑費	0	0	0	0	
② 法人費支出	2,261,000	2,251,000	2,070,536	10,000	
1. 役員手当報酬支出	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の3
2. 給料手当支出	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の3
3. 法定福利費支出	5,000	5,000	3,876	0	
4. 会議費支出	70,000	70,000	63,000	0	理事会 評議員会等会場費 打ち合わせなど
5. 交際費支出	50,000	50,000	0	0	慶弔費など
6. 旅費交通費支出	450,000	400,000	450,000	50,000	理事会 評議員会旅費など
7. 通信運搬費支出	45,000	45,000	38,158	0	保守料金・電話料金(3か月)
8. 消耗什器備品費支出	10,000	10,000	0	0	パソコン資金など
9. 消耗品費支出	10,000	10,000	8,433	0	修繕費を含む
10. 印刷製本費支出	1,000	1,000	0	0	
11. 賃借料支出	215,000	215,000	152,394	0	総額の約12分の3 更新料、家財保険料、保証料他
12. 租税公課支出	5,000	5,000	1,700	0	
13. 委託料支出	830,000	850,000	792,975	△ 20,000	日本パートナーズ会計など
14. 雑支出	30,000	50,000	20,000	△ 20,000	
事業活動支出合計	10,477,500	10,556,500	5,729,682	△ 79,000	
事業活動収支差額	△ 3,194,535	△ 2,633,198	1,413,283	△ 561,337	
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
① 基本財産変更差額収入	0	0	0	0	
基本財産変更差額収入	0	0	0	0	
② 特定資産取崩収入	4,200,000	3,400,000	3,400,000	800,000	
(公1)訪中派遣費用準備資金	400,000	400,000	400,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金	2,000,000	2,000,000			
(公2)訪日受入事業準備資金				0	
(公3)教育交流支援費用準備資金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金	800,000	0	0	800,000	
(公4)田中一郎記念奨学基金					
(共通)教育交流積立金				0	
投資活動収入計	4,200,000	3,400,000	3,400,000	800,000	
2. 投資活動支出					
① 特定資産取得支出	1,000,000	500,000	4,700,000	500,000	
(公1)訪中派遣費用準備資金	500,000	500,000	900,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金				2,000,000	500,000
(公2)訪日受入事業準備資金				0	
(公3)教育交流支援費用準備資金				1,000,000	0
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金				800,000	0
(公4)田中一郎記念奨学基金				0	
(共通)教育交流積立金				0	
② 固定資産取得支出	0	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	0	
③ その他の支出	0	0	0	0	
解約金	0	0	0	0	
投資活動支出計	1,000,000	500,000	4,700,000	500,000	
投資活動収支差額	3,200,000	2,900,000	△ 1,300,000	300,000	
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入計					
2. 財務活動支出					
財務活動支出計					
財務活動収支差額				0	
IV 予備費支出					
当期収支差額	5,465	66,802	113,283	△ 61,337	
前期繰越収支差額	4,100,000	3,800,000	4,013,552	300,000	
次期繰越収支差額	4,105,465	3,866,802	4,126,835		
V 当期一般正味財産増減額の部					
一般正味財産期首残高(見込概数)	64,020,000	62,420,000		1,600,000	
一般正味財産期末残高(見込概数)	60,825,465	59,786,802		1,038,663	
VI 当期指定正味財産増減額の部					
指定正味財産期首残高				0	
指定正味財産期末残高				0	
VII 正味財産期末残高(見込概数)				0	

(4) 2022 (令和4) 年度役員・評議員・公益事業審査員名簿

公益財団法人日本中国国際教育交流協会 理事・評議員・監査・顧問・公益事業審査委員

< 2023 (令和5) 年3月1日現在 >

評議員 (8名)

井上定彦
大川正勝
黒田文男
角田達夫
林裕司
福井太一
別所勝也
山中小白

監事 (2名)

鈴木伸昭
山門真

公益事業審査委員 (5名)

初岡昌一郎
樋口弘夫
田中正志
福井太一 (評議員)
赤岡直人 (理事)

理事 (7名)

赤池浩章
赤岡直人 (業務執行理事)
天野博史
伊藤功
島崎直人
中村武志 (代表理事)
前嶋徳男

顧問 (2名)

輿石東
生井榮一

協会の歩み

設立 1991年1月
1992年財団法人認可
2010年8月5日公益財団法人認定
公益財団法人移行 2010年8月9日
創立者 田中 一郎 (初代理事長)
理事長 生井 榮一 (第2代)
代表理事 黒田 文男 (第3代)
代表理事 中村 武志 (第4代2020年6月~現在)

教育交流・派遣事業

1992 私立学校教職員訪中団 (北京、大連)、第1次教育訪中団 (北京、杭州。李鉄映国家教育委員会主任と会見)
1993 第2次教育訪中団 (北京、瀋陽、撫順、大連。倪全人代常務副委員長会見)
1994 第3次訪中団 (昆明、成都)
1995 第4次教育訪中団 (ウルムチ、トルファン)、協会理事訪中団 (北京。国家教育委員会、中国教育国際交流協会訪問)
1996 第5次教育訪中団 (済南・青島、蘇州)
1997 第6次教育訪中団 (日中国交正常化25周年、財団設立5周年記念北京、天津、常州、蘇州。朱国家教育委員会主任と会見)
1998 第7次教育訪中団 (北京、ハルビン、長春)
1999 第8次教育訪中団 (南京、杭州、上海)
2000 第9次教育訪中団 (昆明、大理、麗江)
2001 第10次教育訪中団 (西寧、西安)
2002 第11次教育訪中団 (日中国交正常化25周年記念。南寧、桂林)
2004 第12次教育訪中団 (北京、承德)
2006 第13次教育訪中団 (北京、天津)
2007 第1期安東自由大学参加団 (韓国・安東市)
2008 第14次教育訪中団 (北京、河北省易県)
第2期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
2009 第3期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
2010 第15次教育訪中団 (北京、河北省易県)
2011 第5期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
2012 第6期安東自由大学参加団 (韓国・安東、大邱、ソウル)
2013 第7期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
2014 第16次教育訪中団 (上海・南京)
2015 視察研修訪中団 (北京・泰安市東平県)
2016 第1回日中音楽教育交流会 (北京・泰安市東平県)
2018 第17次教育訪中団 (北京・泰安・青島) 第3回日中音楽教育交流会 (泰安市等東平県)
2019 視察研修訪中団 (北京)

教育交流・受入事業

1992 中国教職員訪日代表团 (東京、三重、神奈川、愛知、茨城、山梨、千葉、静岡)
1993 寧波市訪日団 (東京、茨城、群馬、千葉)、常州市訪日団 (兵庫、福井、三重)、寧夏自治区訪日団 (愛知、富山、新潟)、中国教育国際交流代表团 (東京、神奈川、静岡、神奈川、京都、奈良、兵庫、大阪。赤松文

相と会談)
1994 江蘇省小学校長訪日団 (神奈川、山梨、静岡)
1995 湖南省訪日団 (愛知、静岡、三重)、蘇州市訪日団 (千葉、神奈川、山梨)
1996 モンゴル赤峰市職業教育代表团 (東京、北海道)、常州市訪日団 (千葉、山梨、東京) 卒業生就職指導訪日団
1997 日中国交正常化25周年、財団設立5周年記念教育交流訪日団 (東京、愛知、三重)
1998 蘇州市・昆山市訪日団 (東京、福井、千葉) 常州市訪日団 (東京、山梨、三重、京都、奈良、大阪)
1999 北京市第二実験小学校訪日団 (東京、神奈川、京都、大阪) 中国優秀教師訪日団 (東京、静岡)
2000 雲南教育学会訪日団 (東京、山梨、千葉)
2001 中国教育交流訪日団 (東京、山梨、奈良、京都、大阪)
2002 中国特殊教育工作者代表团 (東京、三重)
2003 北京市崇文区教育関係者訪日団 (東京、山梨)
2006 協会設立15周年記念中国教育国際交流訪日団 (東京) 遼寧省体育訪日団 (東京、神奈川、滋賀、大阪)
2008 中国宋慶齡基金会教育代表团 (第1次) (東京、静岡、愛知、京都)
2009 中国宋慶齡基金会李寧秘書長、協会を訪問
2011 協会設立20周年記念中国教育国際交流協会訪日団、中国宋慶齡基金会教育代表团 (第2次) (東京、神奈川)
2012 中国宋慶齡基金会唐開生副主席、協会を訪問
2013 第3次宋慶齡基金会教育交流代表团 (三重、京都)
2017 第4次宋慶齡基金会教育交流代表团 (静岡) 第2回日中音楽教育交流会 (静岡)
2019 第5次宋慶齡基金会教育交流代表团 (山梨) 第4回日中音楽教育交流会 (山梨)

教育交流・支援事業

1996 雲南省災害教育復興資金 (100万円) を贈る。
1998 長江水害見舞金 (100万円) を中国教育国際交流協会を通じて贈る。松花江水害見舞金 (50万円) を黒龍江省教育委員会を通じて贈る。
2006 協会代表、中国宋慶齡基金会、河北省易県を訪問。
2007 生井理事長が中国宋慶齡基金会胡啓立主席と会談。河北省易県小学校へ机椅子600セット及び電子キーボード40台 (総額200万円) の教育支援及び音楽教師養成セミナー支援。協定書締結。
2008 四川大地震に対し、見舞金 (100万円) を中国教育国際交流協会を通じ四川教育国際交流協会へ。同じく見舞金 (50万円) を宋慶齡基金会を通じて贈る。また、ミャンマーサイクロン被害見舞金 (50万円) をビルマ日本事務所を通じて送る。日本教育公務員共済会より易県教育支援に関し、本部奨励金 (100万円) を受ける。
2009 第1回音楽教師養成セミナー参加 (北京、河北省易県)
2010 第2回音楽教師養成セミナー支援・参加 (70万円)
2011 第3回音楽教師養成セミナー支援・参加 (100万円)。東日本大震災支援「こども音楽再生基金」へ寄附 (100万円)。
2012 協会代表 (黒田代表理事) 以下4名が中国宋慶齡基金

会（李寧秘書長）、中国教育国際交流協会（林佐平副秘書長）、中国教育科学文化衛生体育工会（万民東主席）を訪問。第4回音楽教師養成セミナー支援（250万円）。

- 2013 第5回音楽教師養成セミナー支援（200万円）（黒田代表理事、会員代表ら8名参加）。
- 2014 協会代表（黒田代表理事）以下3名が中国宋慶齡基金会（井頓泉副主席）、中国教科文衛體工會全國委員會（白立文國際代表）を訪問。第5回音楽教師養成セミナー支援（100万円）送金。
- 2015 協会代表（黒田代表理事）以下3名が中国宋慶齡基金会（井頓泉副主席）を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
- 2016 協会代表（黒田代表理事）以下6名が中国宋慶齡基金会（井頓泉副主席）を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
- 2017 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
- 2018 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
- 2019 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
- 2021 河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）。
- 2022 河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）。

教育交流・研究等助成事業

- 1995 中国人日本留学生に奨学奨励金制度を設ける
- 1997 協会設立5周年記念教育交流集会・レセプション（東京）
- 1999 韓国中学校教育協議会名誉会長厳圭白博士と田中会長・理事長会見
- 2001 中国教育国際交流協会20周年式典で、田中会長・理事長が顧問に就任。協会設立10周年記念教育交流集会（文部省後援、東京）
- 2002 日中国交正常化30周年記念教育交流集会・レセプション（文科省・中国大使館教育処後援、東京）
- 2006 協会設立15周年記念教育交流集会・レセプション（文部省・中国大使館教育処後援、東京）
- 2007 第3回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。
- 2008 第4回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。
- 2009 第5回「中国人の日本語作文コンクール」後援。
- 2010 第6回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2011 第7回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンツ協賛。
- 2012 第1回教育交流ホームステイ（in 山梨）実施。第8回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンツ協賛。
- 2013 第2回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第9回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2014 第3回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第10回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2015 第4回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第11回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第1回日中教育文化交流シンポジウム開催。
- 2016 第5回教育交流ホームステイ（in 千葉）。第12回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第2回日中教育文化交流シンポジウム開催。

- 2017 第6回教育交流ホームステイ（in 千葉）。第13回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第3回日中教育文化交流シンポジウム開催。
- 2018 第7回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第14回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第4回日中教育文化交流シンポジウム開催。
- 2019 第8回教育交流ホームステイ（in 神奈川）。第15回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2020 第16回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2021 第17回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2022 第18回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第5回日中教育文化交流シンポジウム開催（2023年3月現在）

公益財団法人日本中国国際教育交流協会とは

◆日本中国国際教育交流協会は

1971年に創立。東アジアの豊かな未来を実現するために、日本と中国を柱として、教育交流事業を進めています。子どもや教育の持つ「共生力」に限りない期待を寄せています。

◆公益財団法人とは

広く公益に資する事業を進めている法人として2010年内閣府から認定を受けました。公益法人は、寄付金に税はかからないので、支援がしやすいのが特徴です。

◆教育交流は4つの分野で

1 派遣

教育に関心のある人たちによって構成された協会が派遣する団で、学校見学、授業の交流、子どもや教職員との交流を行い、未来の東アジアを地球規模で考えます。

2 受入

諸外国からの教育関係の訪日団を受け入れ、学校訪問等を行い、教職員や子どもたちとの交流を深めています。訪日団の希望に沿って、教育現場の協力を得た研修への参加ができます。

3 支援

教育困難地域の学校に、机や椅子などの学校備品のほか、電子キーボードなどの教育機器を送っています。また送った機器を使って授業が進められるための研修を支援しています。支援を受け入れる団体は、行政または信頼のおける団体です。

4 研究等助成

田中一郎奨学基金を設立し、東アジアを中心に国際的な教育交流を担う人材を育成します。また、「日本語作文コンクール」「教育交流ホームステイ」などを通して、海外や日本で日本語を勉強している若者の学習を助成しています。

◆東アジアでのこの素敵な教育交流への参加をお待ちします。

個人会員	年会費	一口	5,000円
団体会員	年会費	一口	10,000円
賛助会員	年会費	一口	3,000円
寄付金	随時		

会員、寄附をされた団体・個人には、協会の年会報、「共生力」（随時発行の会報）、海外派遣への先行連絡、イベントのご案内などを差し上げます。

【編集後記】

2022年度は、残念ながら相変わらずのコロナ禍で、予定していた活動のほとんどが実施できませんでした。今年に入り、少しずつ回復の兆しが見えてきていますので、2023年度こそは、と願っている毎日です。コロナ禍にありながら、世界各地で、戦争・内乱・圧政・災害・飢餓等が起こり、極端な人権侵害が続いていると思います。そうした中、本来、「人々の平和で安心な生活」を希求すべき政治は混乱が続き、格差と分断を助長し、我が国を含め世界的に不安定さを増していると思います。まずは人権の観点に立って、今後の展開について注視していかなくてはならないと考えています。そのような情勢の中で、限られた取り組みではあっても、当協会の事業につきましても、大変大きな意義を持つものとして評価されています。宋慶齡基金会との「新たな5か年計画プロジェクト（河北省保定市阜平県との教育交流）」につきましても、2023年度は3年目を迎えます。しかしながら、訪中等の具体的な活動に移ることができていません。今後も中国と連絡を取りながら、様々な形を試しながら取り組みを行っていかうと考えています。

「世界の平和、人類の共生のために、しっかりと民間レベルでの人と人とのつながりをつくる」、そんな東アジアを中心とする教育交流事業の推進に、これからも努力を重ねて参りたいと考えています。ご理解・ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

■公益財団法人日本中国国際教育交流協会【会報第29号】

2023年（令和5年）3月27日発行

発行人…中村武志 表紙題字…田中一郎（創立者） 印刷…（株）アートプリント
〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-32-16 甲府丸の内マンション302

Tel.055-269-6533 Fax.055-269-6534

HP : <http://ajciee.or.jp/>